



## ハエはどうして、うんちにあつ集まるの

### うんちが幼虫のえさだから

ハエの仲間には、動物の死体やふん、くさりかけた果物や野菜などを見つけると、そこに卵を産みつけるものがあります。卵からかえった幼虫は、これらを食べて大きくなります。親であるハエも、うんちを食べる種類があります。そのハエにとっては、おいしいのでしょう。

### うじむしは、どろどろのしるの中で成長する

ハエの仲間の幼虫は、うじむしで、かむ口をもっていません。体から水気が取られてしまうため、じかに日光にあたるのや、乾燥が苦手です。そのため、卵からかえると、すぐ、くさりかけてどろどろした果物や、ふんなどの中にもぐって、その中で、水気がたっぷりの食べ物を吸って成長します。よく見かけるイエバエは、動物のふんなどに卵を産みます。卵からかえった幼虫は、食べ物をとくす消化液を体の外に出し、動物のふんなどをどろどろにとかして、その中にもぐったまま、とかした養分を吸って生きています。

ハエの仲間にとっては、うんちや、くさりかけた物のにおいは、きっと、いいにおいなのでしょう。

### ハエがさわった物は、よごされている

ハエは、うんちや、くさりかけたものの所へよく飛んでいくので、ハエの足や体には、うんちなどのきたない物や、さまざまなばい菌がついています。だから、ハエがとまったものは、きたないし、ばい菌がついているので危険です。

ハエがこないよう、くさりかけた物を放り出しておかないようにし、ごみのしまつや、散歩のイヌのふんのしまつなども、きちんとしましましょう。(監修・中山 周平)

